

閉園した幼稚園が新たなアトリエに生まれ変わる！

「北の近江アーティスト・イン・レジデンス」参加アーティスト3名が決定

滋賀県は今年度新たな取組として、県北部地域を対象とした「北の近江アーティスト・イン・レジデンス事業」を始動させます。

舞台となるのは、令和7年(2025年)3月に22年の歴史に幕を下ろした旧米原市立山東幼稚園。米原市の協力を得て、たくさんの思い出が詰まった園舎が今年度の拠点となります。令和8年9月から約3か月間、異なるジャンルで全国的に活躍するアーティスト3名が滞在制作を行います。

単なる作品展示にとどまらず、地域住民との交流やプロセス(制作過程)そのものを共有・発信しながら、北の近江にこれまでにない新たな魅力を創出してまいります。

参加アーティスト(五十音順)

決定した参加アーティスト(3名)※プロフィール詳細は裏面

- 岡田 真由美(おかだ まゆみ)氏
- 神里 雄大(かみさと ゆうだい)氏
- 園部 恵永子(そのべ ええこ)氏

制作・滞在拠点

旧米原市立山東幼稚園(米原市池下91)

※令和7年(2025年)3月に22年の歴史に幕を下ろした園舎を活用します。



滞在期間

令和8年9月～11月(約3か月)

今後のスケジュール（予定）

滞在制作のプロセス自体を地域と共有・体感いただくため、以下の企画を予定しています。

- 令和8年10月下旬：オープスタジオ・マルシェの開催
アトリエ（旧山東幼稚園）を一般公開し、アーティストや地域の方々が直接対話・交流できる場を設けます。
- 令和8年11月下旬：現地成果発表会・マルシェの開催
約3か月間の滞在制作を通じて生み出された作品やプロジェクトの成果をお披露目します。
- 令和9年1月～2月頃：滋賀県立美術館での特別展示
米原の地で生まれた表現やプロセスを、県立美術館にて広く発信いたします。

参加アーティスト プロフィール詳細（五十音順）

- 岡田 真由美 氏



東京都出身。2025年に京都市立芸術大学大学院を修了し、現在は京都を拠点に活動する現代美術家。社会の中で消失していくものへのまなざしを「収集」という行為を起点に捉え、作品を制作している。近年の主な活動に、「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」や京都芸術センター開設25周年記念展、「ARTISTS' FAIR KYOTO 2026」などがある。

- 神里 雄大 氏



ペルー生まれ、神奈川育ちの劇作家・舞台演出家。2003年に「岡崎藝術座」を結成、主宰を務める。特定の拠点を持たず、「移動」「移民」「観光」をテーマに、国内外を旅して集めた体験から作品を創作しているのが特徴。2018年に『バルパライソの長い坂をくぐる話』で第62回岸田國土戯曲賞を受賞。近年は展示やパフォーマンスなど多岐にわたり活躍。

- 園部 恵永子 氏



美術家。「絵を描くこと」や絵と身体の関係について探究している。描きたいままに描けない手製の描画道具「グングニル」を用いた参加型の作品を展開。時には自身の身体も他者の道具として共有しながら、作者と鑑賞者の境界を超えた共同制作に取り組む。第24回岡本太郎現代芸術賞入選、第4回公募アートハウスおやべ現代造形展大賞受賞。

北の近江アーティスト・イン・レジデンス 公式WEBサイト

<https://kita-no-omi.com>